

大下遺跡発掘調査結果概要報告

所在地 三重県鈴鹿市稲生町 851-2, 850-2, 848-2, 847-2
調査原因 農道整備に係る埋蔵文化財の記録保存
事業主体 鈴鹿市
調査期間 平成 30 年 7 月 2 日～平成 30 年 11 月 30 日
調査面積 410㎡
調査主体 鈴鹿市文化スポーツ部文化財課
調査担当 佐藤梨花

1 はじめに

大下遺跡発掘調査は市道整備（稲生^{いのう} 456 号線道路改良工事）に伴う緊急発掘として実施した。平成 29 年 7 月 19 日に鈴鹿市長から発掘通知が提出され、平成 29 年 10 月 3 日に範囲確認調査を実施した。その結果、事業地の地下に遺構や遺物が存在していることが確実とされたため、当発掘調査を実施する運びとなった。今まで発掘調査は実施されておらず、初の調査となる。現地作業は平成 30 年 7 月 2 日から着手し、平成 30 年 11 月 30 日をもって終了した。

2 遺跡の立地と周辺の遺跡

大下遺跡は中ノ川流域の左岸、通称「稲生山」と呼ばれる丘陵地の南東麓に形成された中位段丘の先端部に立地する。調査地の標高は約 3m、南に広がる沖積地との比高差は約 2m である。東西両側を谷に浸食され細長く半島状延びて沖積平野に突き出している。南側には中ノ川によって形成された自然堤防が海岸に向かって延び、こちらには野之上遺跡が立地する。

中ノ川左岸の遺跡を概観すると、稲生山と周辺の段丘面において地元の研究者により踏査が進められ旧石器～縄文時代の石器散布地が多く知られるが、調査による遺構の確認に至っていない。

弥生時代には長法寺遺跡で中期の方形周溝墓が確認され、御園町高井 A・B 遺跡で中期の土器が出土し、稲生町南谷遺跡は後期の高地性集落で、尾根を切る壕から鉄鏃も出土している。

古墳時代前期については、中ノ川対岸にアカゴ塚古墳・経塚古墳等の首長墓の系譜が確認されるのに対し、左岸の古墳や集落分布は極めて希薄である。古墳時代後期になると稲生山丘陵で須恵器生産が開始し、期を同じくするように稲生遺跡・伊奈富遺跡^{いのう}・稲生東遺跡等の集落が営まれる。ただし、後期古墳の密度もさほど高くなく北山古墳群^{こうがけ}・甲懸Ⅱ遺跡^{あんげ}で埴輪の出土を見る程度である。

律令期において、当地は地名に残るとおり伊勢国奄藝郡塩屋郷に比定される。延喜式内社である加和良神社^{かわら}は本来遺跡南側の花ノ木明神に鎮座していたとされ、『大安寺伽藍縁起并流記資材帳』に、大安寺領城上原四十二町の南限「南加和良社」と記述のある由緒正しい社であり、この一帯が塩屋郷の中心地であったと考えられる。しかし、現在のところ律令期から中世にかけての遺跡は、稲生東遺跡において調査されているのみで、塩屋郷の実態は考古学的に明らかでない。

3 調査区の設定

範囲確認調査の結果を受け、事業地内に遺構・遺物の存在が考えられる範囲を北から 1 区、拡張区、2～5 区と区分した。調査区は幅約 4 m で、1 区と拡張区の間に見える大木を避けた合計約 100 m に渡って設置した。

4 検出した遺構

検出した遺構は近世の溝、弥生時代末～古墳時代中期前半の大溝、時期不明の溝と土坑である。

近世 幅約 0.4 m、深さ 0.4 m の溝が 2 条、幅約 2 m あけて南北に並行して走る。道路遺構と見られる。1 区で確認されたが、拡張区及び 2 区では現代の造成によって検出されない。3 区以南で西側溝のみ確認された。5 区で台地の西側に向かって屈曲する。灯明皿片が発見された。

弥生時代～古墳時代 拡張区から 5 区にかけて大溝が検出された。拡張区及び 5 区で溝は東に向かって彎曲している。溝は検出面で幅約 4 m、深さは約 1.4 m である。溝は大別して最上層・上層・中層・下層の 4 層に分けられる。最上層には須恵器片が含まれ、上層には古墳時代前期後半～中期前半の土器が多量に含まれる。中層は台地側から土砂が流入した層と見られ、遺物は希薄である。下層には粘質土が堆積しており、下層の最下部には弥生時代末～古墳時代初頭の土器や多量の木質遺物が含まれる。

2 区において下層最下部と同じ高さで、大溝西壁を切って木樋が設置される。木樋は西に広がる沖積地に向かって延びており、設置後に粘質土を被せることで暗渠とされていた。

時期不明 土坑と溝が検出される。土坑は 1 区及び 5 区の溝の西側で数基発見される。うち 1 基は深さ 1.2 m あり、滞水していた痕跡が見られる。須恵器片がわずかに発見された。溝は 5 区の南側で東西方向に走る。V 字形を呈し、検出面で幅 2.5 m、底部で幅 0.2 m であった。遺物の発見はない。

5 調査の成果

第 1 の成果として、近世の道路遺構が発見された。陶器製の灯明皿がまとまって発見されている。付近には大正 11 年まで式内社加和良神社が鎮座しており、これに関わる遺物かもしれない。

第 2 の成果としては、大溝と、大溝に設置された木樋の発見である。溝からは大別して古墳時代前期後半～中期前半と弥生時代後期末～古墳時代初頭の 2 時期の遺物が出土しており、これら時期には微高地上に集落が存在したものと見られる。

また、木樋は弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器出土地点付近に存在し、これら土器が出土した高さと同レベルに存在することから、これと同じ時期に設置された可能性が考えられる。木樋は暗渠となっており、単純な利水施設を超えた意味合いを持つ可能性もある。弥生時代から古墳時代にかけての木樋の発見は、県内のみならず全国的にも非常にめずらしく、史跡指定に値するレベルの発見といえよう。しかしながら、調査最終時期に発見されたため、十分な現地での検討を行うことができずに取り上げざるを得なかった、誠に残念である。今後、整理作業を通じて木樋について多くの情報が得られることを期待する。

この大溝及び木樋の発見は、今回調査における最大の成果といえる。大溝は、環濠集落あるいは濠に囲われた豪族居館の存在の可能性を示し、また発見された木樋は導水（祭祀）施設に伴うものである可能性が高く、有力な首長の存在を想定せざるを得ない。

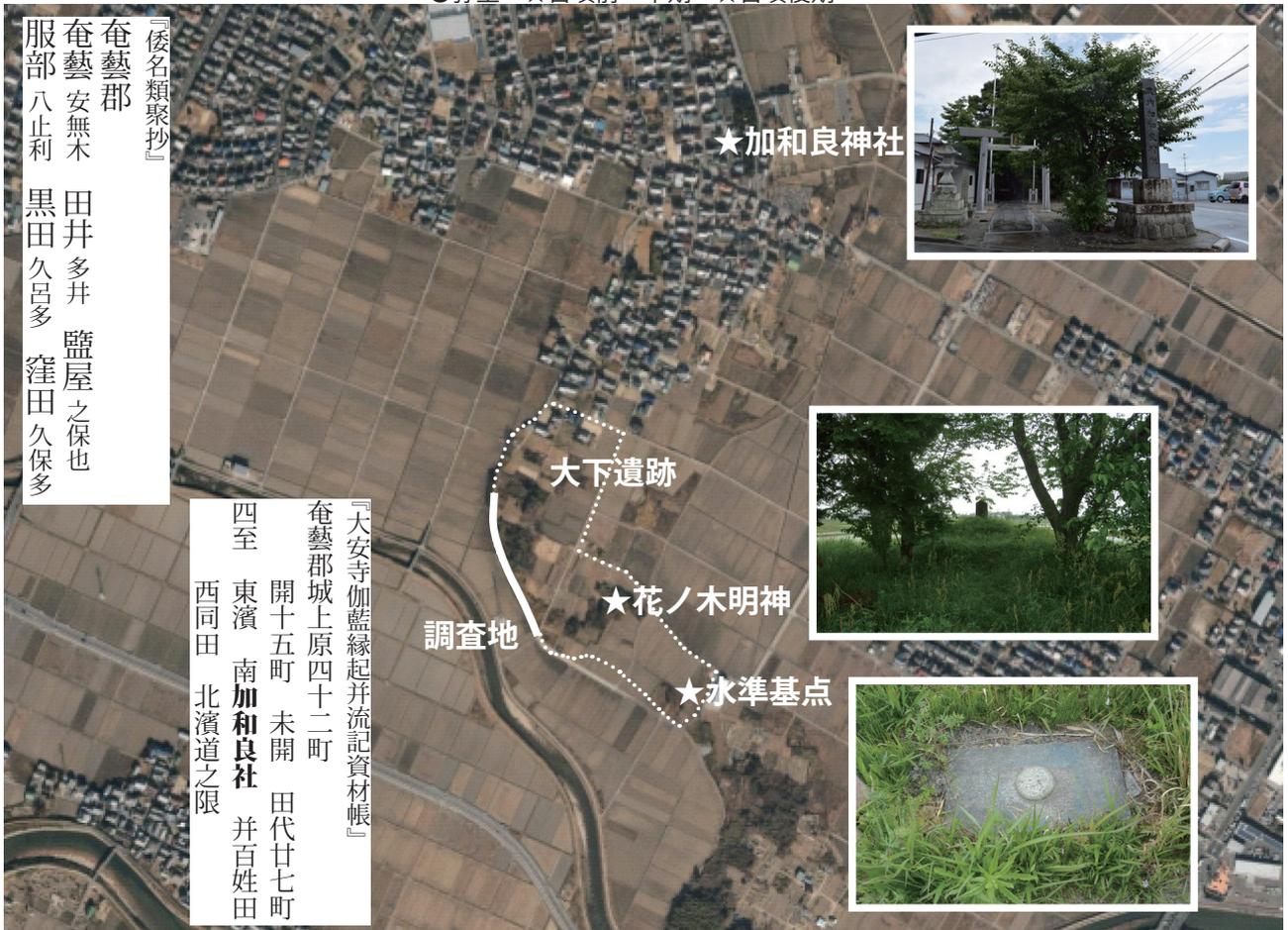
これまで稲生地区をはじめとする中ノ川左岸においては、弥生時代後期末から古墳時代中期にかけて遺構や遺物の発見は希薄であり、古墳時代後期に須恵器生産の開始を契機として開発が進んだ印象が強かった。対して、三角縁神獣鏡を出土したアカゴ塚古墳等の存在から、中ノ川右岸の中瀬古町から郡山町にかけての中位段丘一帯が流域を支配する首長の本拠地であろうと考えられてきた。しかし、今回の調査の結果によって、中ノ川流域の古墳時代初頭の社会構造や勢力分布は大きな見直しを迫られることになり、非常に重要な発見となった。

今回調査区の東側の段丘面上には、遺構や遺物が存在していることは確実である。また、現状では周知の埋蔵文化財包蔵地外とはなっているものの、西面の谷底平野には木樋に連続する重要な遺構が存在する可能性が極めて高いと考えられる。



周辺の主要遺跡 (1/50,000)

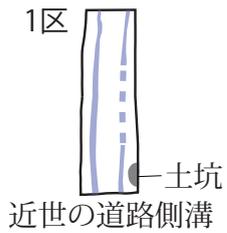
●弥生 ★古墳前・中期 ☆古墳後期



『倭名類聚抄』
奄藝郡
奄藝安無木
服部八止利
田井多井
黒田久呂多
窪田久保多
鹽屋之保也

『大安寺伽藍縁起并流記資材帳』
奄藝郡城上原四十二町
開十五町 未開 田代廿七町
四至 東濱 南加和良社 并百姓田
西同田 北濱道之限

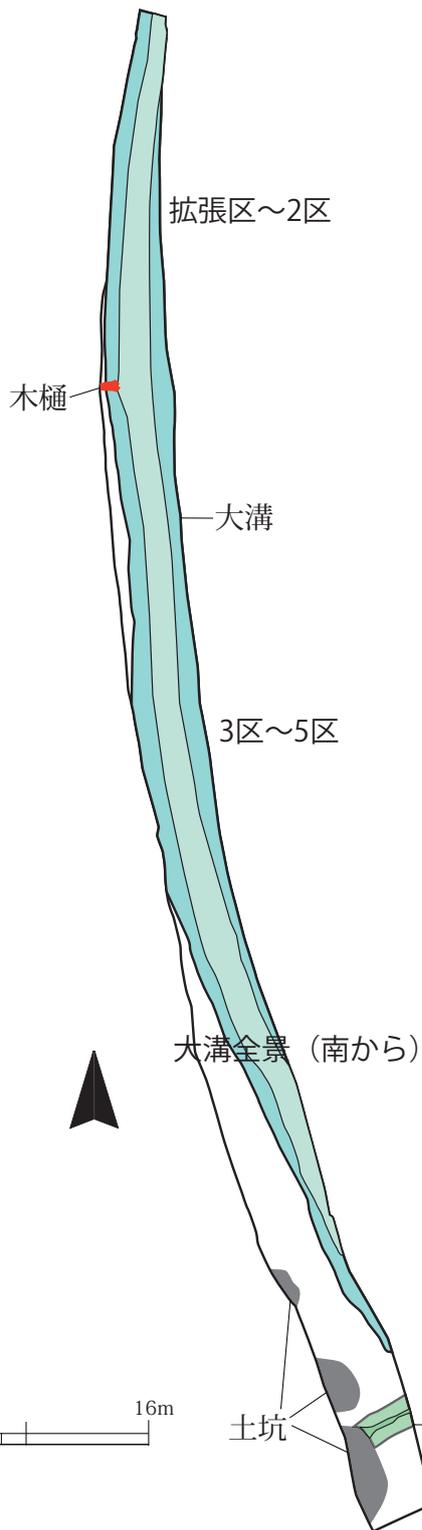
大下遺跡とその周辺 (1/10,000)



大溝全景 (北から)



大溝全景 (南から)

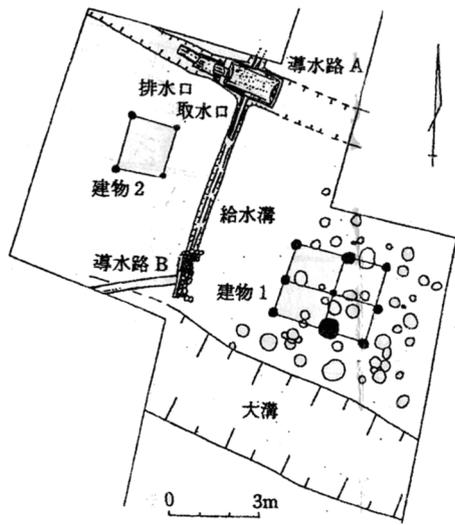


木樋 (東から)



木樋越しにみた中ノ川流域 (東から)

大下遺跡遺構配置図 (1/500)

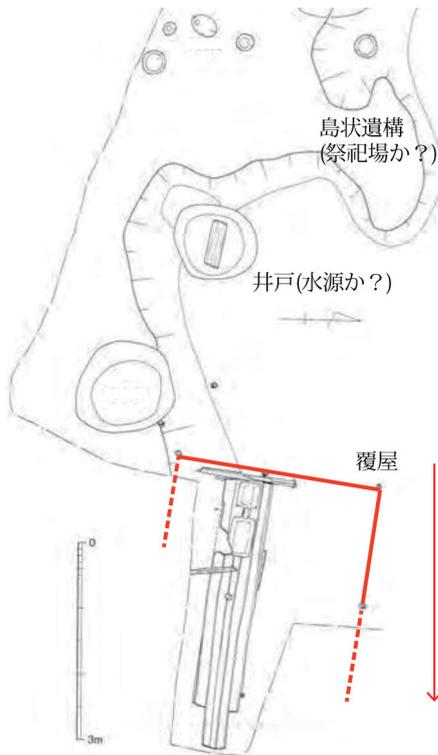


奈良県桜井市 纏向遺跡

『カミによる水のまつり』

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

2003 から

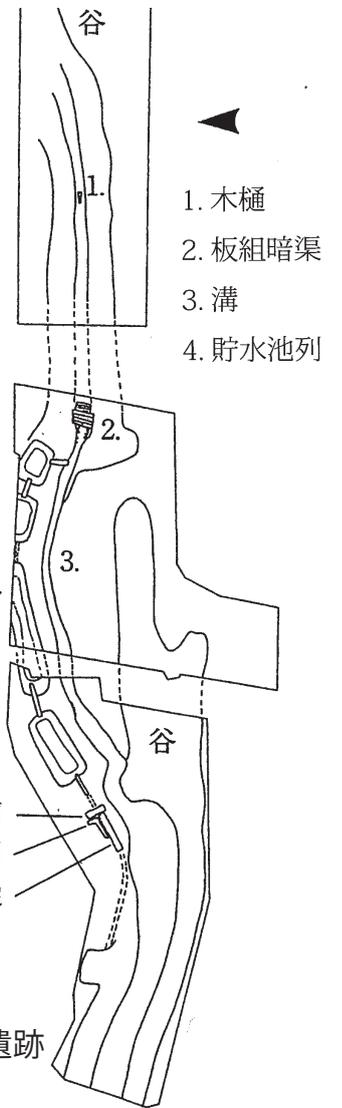


福岡県行橋市 延永ヤヨミ園遺跡

『古墳時代の導水施設』

『九州歴史資料館展示解説シート』46

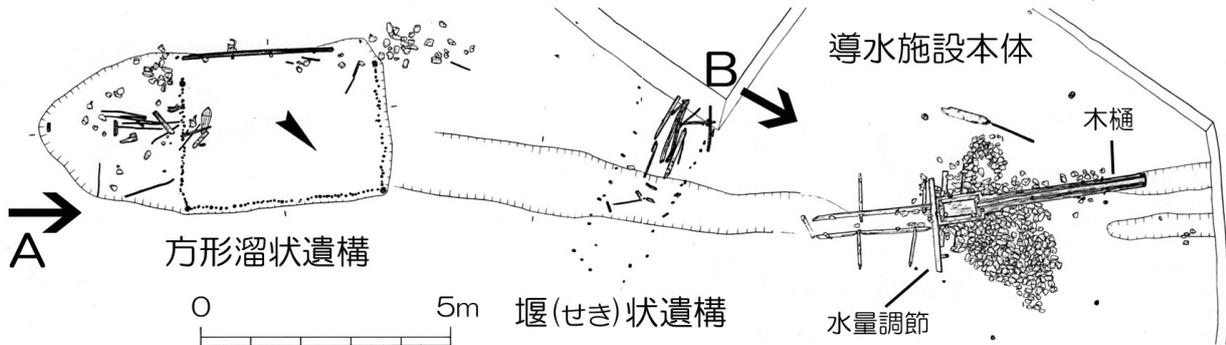
九州歴史資料館 2015 から



大阪府東大阪市 神並・西ノ辻遺跡

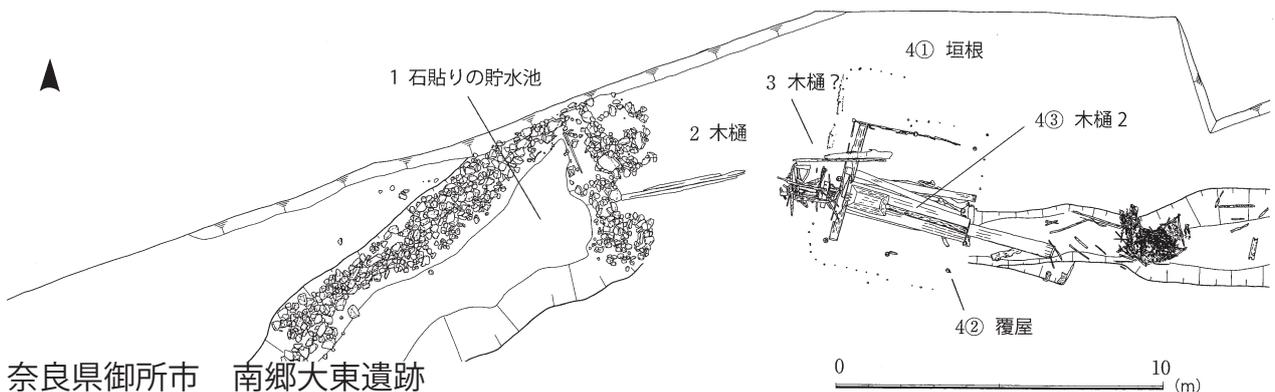
『導水施設と埴輪群像から見えてくるもの』

滋賀県立安土城考古博物館 2010 から



滋賀県守山市 服部遺跡

『昭和の発掘史に煌く 服部遺跡発掘調査の概要』 守山市埋蔵文化財センター 2017 から



奈良県御所市 南郷大東遺跡

『導水施設と埴輪群像から見えてくるもの』 滋賀県立安土城考古博物館 2010 から

各地の主な導水施設遺構

遺跡	所在地	時期	形態	備考
纏向遺跡	奈良	3世紀後半～4世紀初頭	木樋 井泉	
延永ヤヨミ園遺跡	福岡	3世紀中頃～4世紀中頃	木樋	
服部遺跡	滋賀	4世紀	木樋	
浅後谷南遺跡	京都	4世紀前半	木樋	
畝田遺跡	石川	4世紀前半	木樋	
千代・能美遺跡	石川	4世紀前半	木樋	
磯野北遺跡	奈良	4世紀前半	木樋	
瓦谷遺跡	京都	4世紀前半～中葉	木樋	2点
南郷大東遺跡	奈良	5世紀前半～中頃	木樋	
大柳生宮ノ前遺跡	奈良	5世紀中頃～6世紀中頃	木樋	
神並・西ノ辻遺跡	大阪	5世紀後半	木樋	2点
水衛遺跡	三重	6世紀	木樋	
三ッ寺Ⅰ遺跡	群馬	5世紀後半～6世紀初頭	導水	石敷
池上曾根遺跡	大阪	弥生時代中期末	井戸	
藤江別所遺跡	兵庫	弥生時代後期以降	井泉	
八王子遺跡	愛知	3世紀?	井泉	
古轡通りB遺跡	三重	4世紀	井戸	
本位田遺跡	兵庫	4世紀	井泉	石組
中溝深町遺跡	群馬	4世紀～5世紀前半	井泉	石組
天白磐座遺跡	静岡	4世紀後半～5世紀	井泉	
城の越遺跡	三重	4世紀後葉～5世紀中頃	井泉	石組含む
清水内遺跡	福島	5世紀	井泉	
屋代遺跡	長野	5世紀	井泉	
駒沢新町遺跡	長野	5世紀	井泉	
砂行遺跡	岐阜	5世紀	井泉	
南紀寺遺跡	奈良	5世紀	井泉	
八尾南遺跡	大阪	5世紀?	井泉	
阪原阪戸遺跡	奈良	5世紀～	井泉	石組
京ヶ辻遺跡	福岡	5世紀	井泉	
六大A遺跡	三重	5世紀後半～6世紀	井泉	
熊野堂遺跡	群馬	5世紀後半～6世紀?	井泉	
三室間ノ谷遺跡	群馬	6世紀	井泉	
上之宮遺跡	奈良	6世紀後半～7世紀初頭	井泉	
沢代遺跡	三重	古墳・奈良時代	井泉	
古宮遺跡	奈良	飛鳥時代	井泉	
三田谷Ⅰ遺跡	島根	古代	井泉	
山添遺跡	奈良	奈良時代後半	井泉	
大園遺跡	大阪	奈良時代後半	埴輪	
野毛大塚古墳	東京	5世紀前半	埴輪	2槽、石製
宝塚古墳	三重	5世紀前半	埴輪	
芝ヶ原古墳群	京都	5世紀前半	埴輪	
五条猫塚古墳	奈良	5世紀前半	埴輪	
ナガレ山古墳	奈良	5世紀前半	埴輪	
心合寺山古墳	大阪	5世紀前半	埴輪	
野中宮山古墳	大阪	5世紀前半	埴輪	2槽
行者塚古墳	兵庫	5世紀前半	埴輪	2槽
月の輪古墳	岡山	5世紀前半	埴輪	2槽
御塔山古墳	大分	5世紀前半	埴輪	2槽
狼塚古墳	大阪	5世紀中頃	埴輪	

第18表 導水施設・湧水点祭祀および埴輪の類例